

若者たちが、自ら結婚の魅力やふるさと南あわじの良さを発信するとともに、若者同士の交流と絆を深めていこうと活動しています。

淡路ファームパークイングランドの丘で6月24日に開催された「淡路ブライダルフェスティバル」では、島内のホテルや美容室などブライダル関連企業を含む実行委員会が主催して、模擬人前式やファッションショーが行われました。この催しでは、成人式の歴代実行委員会を中心に結成されたグループ「フロンティアーズ」もショーのモデルとして参加。可憐なウェディングドレスや振り袖姿を披露しました。メンバーらは「ふるさとでの結



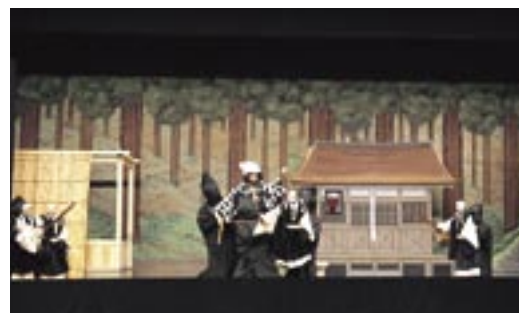
▲マリンスポーツで交流を深める成人式の新旧実行委員やOBのメンバー

淡路人形浄瑠璃の常設館「淡路人形座」が福良港に今月8日オープンします。これを記念して8日は公演ごとに抽選会を開催します。

▽開館 午前9時～午後5時
▽休館日 毎週水曜日（祝日の場合は翌日休館予定）、年末（12月17日～31日）
※出張公演等で臨時休館有
▽公演 1日5回
▽料金 大人1500円、中学生1300円、小学生1000円、3歳以上300円

◆淡路人形浄瑠璃市民講座
オープンに先駆けて、8月5日に市民講座（無料）を開催。

▽時間 午後1時30分～
▽場所 淡路人形座
▽講演 「源平合戦物浄瑠璃と淡路人形座」
▽講師 久堀裕朗氏
▽公演 「奥州秀衡有鬘増鞍馬山の段」、「鬼一法眼三略巻 五条橋の段」



▲奥州秀衡有鬘増鞍馬山の段の一場面



▲モデルとして参加したフロンティアーズのメンバー

婚の夢や拳式の魅力を伝え、自分たち若い力で地元のをPRしてふるさとを活気づけたい」と活動が続けています。

また、若者同士の親睦を深めていこうと海の日の7月16日には、B&G海洋センターで新旧の成人式実行委員やOBのメンバー25人が集まりカヌーレースなどマリンスポーツで交流しました。

淡路ファームパークイングランドの丘で7月15日、沼島近海で獲れる「ぬしま鮓」をPRするイベント「ぬしまフェア」が開催されました。今年で6回目を迎えるこのイベントでは、地元の漁師が「ぬしま鮓」を焼き物や、フライ、刺身に調理して訪れた人たちに振る舞ったほか、販売も行われました。



▲鮓を焼く漁師



▲振舞われたぬしま鮓を食べる家族連れ

若者による魅力発信と交流

ぬしま鮓が振る舞われました

ぬしまフェア

ており、また一本釣りされていることから鮓の体に傷がつかず、東京などで高い評価を得ています。

当日は家族連れを始めとして、島内外から多くの人が訪れました。

吉備国際大学南あわじ志知キャンパス地域創成農学部に来春開校を目指し、県立志知高等学校跡で7月14日、同高等学校の校舎改装、新設工事の安全を祈って起工式が行われました。起工式には大学や自治体関係者のほか、地元住民も参加しました。

その後開かれた記者会見で、吉備国際大学を運営する学校法人順正学園の加計美也子理事長は「南あわじ市は玉ねぎやレタスのほか、酪農も盛んな地域で、大学にふさわしい場所だと思う。『学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会



▲吉備国際大学南あわじ志知キャンパス完成予想図

吉備国際大学地域創成農学部の来春開校に向けて三原公民館で7月14日、市民向けのシンポジウムが開催されました。これは同学部と地域がいに連携を図り、農業振興と地域の活性化につなげるかという趣旨で開催され、市民ら約450人が耳を傾けました。

シンポジウムの前半部では、内藤正明先生（京都大学名誉教授）が「地域創成農学部は何を目指すのか」と題して戦後の時代背景から日本の農業における問題点を浮き彫りにし、地域創成農学の意義が「地域の農業再生」と「地域社会の創成」にあること、新設される同大

学では淡路島が全国に地域創成・再生のモデル地区となることを目指すといった話題提供がありました。続いて、加古敏之先生（神戸大学名誉教授）は2007年に神戸大学農学部が篠山市と連携協定を結び、これまで行ってきた経験を踏まえた上で、大学の専門教育（理論）と現場での実践とを統合し、理論と実践を反復することで教育の質を高めるコープ教育を目指す必要があると話しました。記念講演に迎えた橋本卓爾先生（和歌山大学名誉教授）は、和歌山県での成功事例を紹介し、成功にはいくつかの原則があり、その中でも「地域と大学が自立・対等・互恵の関係にあることが大切」と強調しました。



▲市内の農業の未来に耳を傾ける市民

また中田市長は「市の基幹産業である農業の高齢化が進み、自慢の数々の産品もこれからどうなるかわからない中で、いろいろな先生の助けもあり、吉備国際大学に来てもらうことができた。同大学から地域、日本の農業を活性化し、世界に太刀打ちできるような人材が育ってほしい」と期待を込めました。

工事は来年2月に完了して春から学生を迎え、吉備国際大学地域創成農学部がスタートします。



▲記者会見で抱負を話す中田市長と学校法人順正学園加計美也子理事長（右）

に有為な人材を育成する」の建学の理念のもと地域創成農学部を運営していきます」と話しました。



▲パネル討議参加者（上段左から：加古敏之先生、内藤正明先生、橋本卓爾先生。下段左から：北山定夫さん、原和夫さん、清川とし子さん、伊吹智則さん

例となった㈱秋津野ガルデンの原和夫さんも「地域の課題を考える上で大学の存在は大きかった」と話しました。

また市内在住の兵庫県女性農業士の清川とし子さんは「新たにできる同学部が年齢性別を問わず学びたい人が誰でも学べる場所になってほしい」と期待を話し、若くして農業経営を行うハッスルファーム前会長の伊吹智則さんも「自らの経験の中で理論と実践が違ふことを学んだので、学生にも理論と同時に実践も経験して欲しい。また人手不足の農家に学生が入ることとお互いに良い刺激になると思う」と話しました。

吉備国際大学地域創成農学部起工式

地域創成シンポジウム『大学との連携』

農業で未来を創る